



決算説明補足資料

—2019年11月期第1四半期—

株式会社ラクト・ジャパン

目次

1. 業績概要 P. 2
2. 部門別売上高及び数量推移 P. 3
3. 連結貸借対照表 P. 4

■ 参考資料

- ・ 当社の為替リスクと会計上の表示について
- ・ 売買取引のイメージ（為替の影響）

1. 業績概要



(単位：百万円)

	2018/11 1 Q	2019/11 1Q			2019/11 年間予想
		実績	対前年同期比 増減額	対前年同期比 増減率(%)	
連 結 売 上 高	29,461	27,886	△1,575	△5.3	125,200
経 常 利 益	745	535	△210	△28.2	2,800
売上高経常利益率 (%)	2.5	1.9	△0.6	-	2.2
(経常利益に含まれる為替影響額※)	(△44)	(△98)	(△54)	-	-
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	493	375	△117	△23.8	1,930
売上高当期純利益率 (%)	1.7	1.3	△0.3	-	1.5
一 株 当 たり 四 半 期 (当期)純利益(円)	100.81	76.72	△24.09		394.17
為替レート(円/USD)	110.61	110.62	0.01		-
為替レート(円/EURO)	134.17	125.89	△8.28		-

(財務数値の表示は端数切り捨て)

※経常利益に含まれる為替影響額：当社は外貨為替会計処理基準における原則法を採用しているため、為替ヘッジの影響が売上原価と営業外損益の両方に計上されます。その売上原価と営業外損益両方に対する為替ヘッジの影響額を記載しております(詳細はP5以降の参考資料をご覧ください。)

2. 部門別売上高および数量推移

	2018/11				2019/11	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	年間予想
部門別売上高	(単位：百万円)					
乳原料・チーズ	21,972	21,839	21,856	19,621	21,109	92,270
食肉加工品	3,337	3,279	2,990	2,969	2,941	15,320
アジア-乳原料販売	3,436	3,866	3,128	4,147	2,992	14,330
アジア-チーズ製造販売	499	498	554	564	658	2,380
その他	216	218	248	195	183	900
売上高合計	29,461	29,703	28,778	27,497	27,886	125,200
部門別数量	(単位：MT)					
乳原料・チーズ	53,509	50,658	50,149	44,127	49,784	209,320
食肉加工品	5,789	5,576	5,138	5,090	4,985	26,260
アジア-乳原料販売	11,977	14,454	11,977	14,412	11,298	54,700
アジア-チーズ製造販売	643	646	660	718	874	3,100

(数値の表示は端数切り捨て)

3. 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2018年11月末	2019/2月末	増減額
流 動 資 産	46,337	46,564	226
現金及び預金	4,929	5,790	860
受取手形及び売掛金	15,873	17,173	1,300
棚卸資産	25,216	23,221	△1,995
流動資産その他	318	379	60
固 定 資 産	2,630	2,575	△54
有形固定資産	597	556	△40
無形固定資産	39	36	△3
投資その他の資産	1,994	1,983	△10
※ 資 産 合 計	48,967	49,140	172
買掛金	11,173	10,773	△440
有利子負債	20,948	21,651	702
負債その他	2,413	2,366	△47
※ 負 債 合 計	34,536	34,750	214
純 資 産	14,431	14,389	△42
負債・純資産合計	48,967	49,140	172

主な増減要因

- 棚卸資産・買掛金の減少
新貿易制度（TPP11・日欧EPA）開始に伴う仕入調整
- 有利子負債の増加
長短バランスを勘案した
長期借入金の増加

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(財務数値の表示は端数切捨て、内訳は主要項目のみ記載)

参考資料：為替関連

■ 当社は基本的に為替リスクを負わないビジネスモデル。

海外仕入先との外貨建て仕入契約締結と同時に、国内顧客と円貨の販売契約締結。
その際、仕入外貨額に対する為替予約をすることで為替リスクをヘッジしている。

但し、当社は会計処理基準における原則法を採用しているため、会計上の表示が特徴的。

- 1. 売上総利益と営業外損益（為替差損益）の表示に常に影響。**
- 2. 決算期末をまたぐ取引（翌期以降に販売）は期間損益の表示に影響が発生。**

■ 表示の特徴

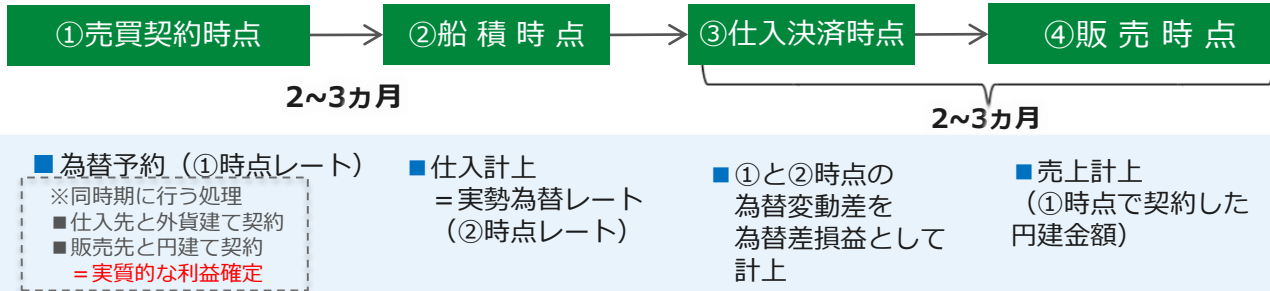
取引の段階に応じて、計上に使用する為替レートが異なるため、
取引の途中段階において、為替差損益が生じる。

最終的には当初の為替レートにより計上された売上・売上原価になるので実質的な利益に
影響はないが、売上計上前の取引の途中段階においては

- ① 売上総利益と営業外損益の表示に影響するほか、
- ② 計上が期間をまたがることにより、期間損益に影響する。

売買取引のイメージ（為替の影響）

為替レートが変動しても、実質的な利益には影響しない。



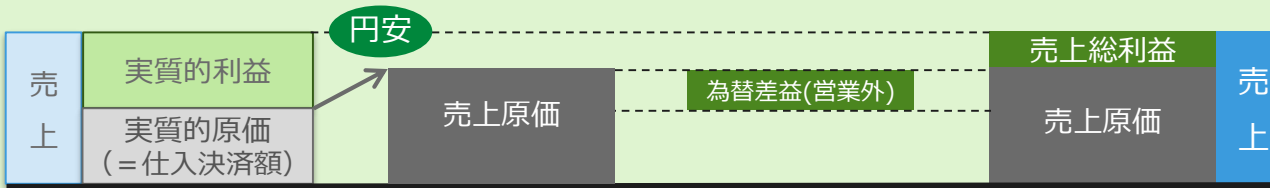
取引終了時（④まで終了）
 ④の販売まで終了した時点では、①～④時点の処理が通算され、①時点の実質的利益及び実質的原価と同額が会計上も計上される。

取引が途中で決算をむかえた場合
 ③時点と④時点の間に期末をむかえた場合、先行して、為替差損益(営業外)が計上される。

為替レート
変動なし

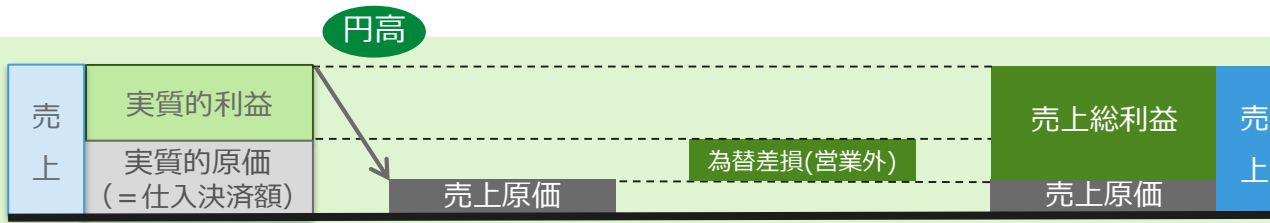


為替レート
円安



③時点では為替差益が営業外利益として先行して計上。
 →①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が高くなるため

為替レート
円高



③時点では為替差損が営業外損失として先行して計上。
 →①時点の為替予約の金額より、②時点の仕入価格が安くなるため